

令和5年度
第1学年



授業シラバス 年間指導計画

国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、
技術家庭(技術分野・家庭分野)、英語

道徳、サイエンス

教科名	年間授業時数	学年
国語	175	1
授業形態	指導者名	
一斉授業	平井 敬貴・筒井 梨紗	

教科書（発行所）	新しい国語（東京書籍）・中学書写1・2・3年（光村図書）	
教科書以外の教材（発行所）	中学必修テキスト 単元別漢字1 ウイニングPLUS中学校問題集国語1 意味から学ぶ頻出漢字3000 国語便覧	（文理） （秀学社） （好学出版） （第一学習社） （浜島書店）

目 標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		
学習のねらい	<p>○知識及び技能</p> <p>・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</p> <p>○思考力、判断力、表現力等</p> <p>・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の学習を通して、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。</p> <p>○学びに向かう力、人間性等</p> <p>・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</p>		
定期 考 査	出題方針	教科書の内容と文法ノートの内容を中心に出题する。	
	範 囲 (予定)	第1回 考 査	「風の五線譜」「扉の詩」「話し方はどうかな」「飛べ かもめ」 「オオカミを見る目」
		第2回 考 査	「詩の心 発見の喜び」「さんきち」「碑」「話を聞いて質問しよう」 「調べて分かったことを伝えよう」
		第3回 考 査	「月夜の浜辺」「私のダンポポ研究」「移り行く浦島太郎物語」「伊曾保物語」 「根拠を明確にして書こう」「音声の働きや仕組み」
		第4回 考 査	「わたしの中にも」「少年の日の思い出」「風を受けて走れ」「竹取物語」 「中心を明確にして話そう」「漢字の部首」
学年末 考 査	「矛盾」「トロッコ」「話し合いで理解を深めよう」「ニュースの見方を考えよう」 「漢字の成り立ち」		
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は国語の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。</p> <p>○具体的な評価は、定期考査、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。</p>		
先生から アドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)	<p>毎日の漢字テストに粘り強く取り組み、言葉の力の基礎を身につけていきましょう。予習で教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書などで確かめ、ノートに整理してみましよう。また、各教材末に置かれている「学びの扉」や授業中に配布されるプリントの問題を考えてみましょう。授業中の要点・板書事項をノートに書き写すだけではなく、授業中の他の仲間の発言にも注意して、ノートに残すようにすると、自分の考えを広げることができます。</p> <p>復習として、その日のうちに再度、教科書やノートを確かめ、メモなどの走り書きをきちんと整理しておく、授業の内容を定着させることができます。古典分野では、覚えなければならない学習事項が多いので、予習・復習を丁寧におこないましょう。</p> <p>なお、課題として配布している問題集は、解答の根拠となる箇所線に線を引きなど見える化し、答え合わせの際には解説をよく読み込み、理解を深めることを大切にしましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	「風の五線譜」「扉の詩」 「話し方はどうかな」	1 3	・詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。 ・相手にとって聞き取りやすいように注意して話す。	
	5	「飛べ かもめ」 「オオカミを見る目」 《第1回考査》	4 4	・人物や情景を描いた表現に注意して、作品を読み味わう。 ・段落の役割や段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る。	
	6	「詩の心 発見の喜び」 「さんきち」 「碑」 「話を聞いて質問しよう」 「調べて分かったことを伝えよう」	2 5 5 3 4	・詩に描かれた風景や思いを想像し、詩を音読して読み味わう。 ・作品から読み取ったことをもとに、想像したことをまとめる。 ・本や資料で調べ、知識を広げたり考えを深めたりする。 ・メモを取ったり、質問したりしながら、話の内容を捉え、考えをまとめる。 ・調べて分かった事実や自分の考えがよく伝わるように、分かりやすい構成でレポートを書く。	
	7	「方言と共通語」 ◎「楷書を書こう」 《第2回考査》	1 4	・方言と共通語の果たす役割について理解する。 ・楷書の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。	
	9	◎「楷書と仮名を書こう」 「月夜の浜辺」 「私のタンポポ研究」 「移り行く浦島太郎物語」 「伊曾保物語」 「根拠を明確にして書こう」	4 2 6 2 6 7	・楷書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。 ・詩の中の言葉から情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 ・事実から筆者がどのように考えを導いているかを捉える。 ・古典にはさまざまな種類の作品があることを知る。 ・歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文の読み方に慣れる。 ・根拠の明確さなどについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の意見文のよい点や改善点を見いだす。	
	10	「音声の働きや仕組み」 《第3回考査》	1	・音声の働きや仕組みについて理解する。	
	後期	11	「わたしの中にも」 「少年の日の思い出」 「風を受けて走れ」 「竹取物語」 「中心を明確にして話そう」	2 7 2 6 6	・詩を読んで理解したことをもとに、考えを深める。 ・作品の展開を読み取りながら、登場人物の心情の移り変わりを捉える。 ・読んだ本を紹介し合い、知識を広げたり考えを深めたりする。 ・古典の作品に描かれた人間の心のありようについて考える。 ・話の中心を明確にし、事実と考えとの関係に注意して、構成を考える。
		12	「漢字の部首」 《第4回考査》	1	・漢字の部首とその意味について理解する。
		1	◎「行書を書こう」 ○百人一首 「矛盾」 「トロッコ」 「話し合いで理解を深めよう」	4 4 7 5 6	・行書の特徴、筆づかいについて理解し、文字の大きさ、配列等に注意して書く。 ・百人一首を通して、伝統文化を尊重する。 ・漢文特有のリズムを味わい、訓読に必要な決まりを知る。 ・作品を読み、情景描写などの表現の効果について考える。 ・話し合いの展開に注意し、お互いの発言を結び付けて、考えをまとめる。
2		「ニュースの見方を考えよう」 「漢字の成り立ち」 《学年末考査》	4 1	・ニュースを比べ、ニュースの見方について自分の考えを持つ。 ・漢字の成り立ちについて理解し、漢字を文や文章の中で使う。	
3		「そこに僕はいた」 「常識は変化する」 「学びを支える言葉の力」「文法解説」	6 5 6	・場面の展開や人物の描写を捉える。 ・論理の展開を捉え、筆者の指摘を理解する。 ・言語事項や文法について理解を深める。	
通年		演習	39	「文法ノート」の解説を読み、言葉の単位・文の成分等について学習する。	
			総時間数	175	

教科名	年間授業時数	学年
社会科	136.5	1
授業形態	指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業	有和仁美	

教科書（発行所）	中学生の地理/地図帳（帝国書院）新しい社会歴史（東京書籍）		
教科書以外の教材（発行所）	実力錬成テキスト地理（文理）	地理学習整理（学宝社）	
	実力錬成テキスト歴史（文理）	歴史学習整理（学宝社）	他

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の国土及び世界の諸地域に関して、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。 ・地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をつける。 ・よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。 ・時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。 		
学習のねらい	<p>(地理的分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本の地域構成を取り上げ、位置や分布などに着目して、課題を追求したり解決したりする活動を通して、地域構成の特色を多面的・多角的に考察し表現する力を養う。 ・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる力を身につける。 ・世界各地の空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設定し課題を追求したり解決したりする力を培う。 ・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理科する。 ・世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 <p>(歴史的分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原始、古代、中世までの大きな時代の流れを捉えさせ、それぞれの時代の特色を外国との接触や交流と政治や文化の変化などに着目して表現できる力を培う。 ・各時代の歴史的な事象を説明することができ、その際適切に資料が活用できる力を身につける。 ・歴史的な事象の中から、地理的な内容とも関連させながら課題を設けて調べたり、諸資料から歴史に関する様々な資料を効果的に調べまとめる技能を身につけたりする。またその課題を解決できる力を身につける。 		
定期考査	出題方針	教科書の内容、使用している副教材の内容から出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	・歴史のとらえる見方 ・世界の姿
		第2回考査	・世界の古代文明と宗教・世界の人々の生活と環境
		第3回考査	・古代の日本 ・世界の諸地域①
		第4回考査	・世界の諸地域② ・中世の日本（鎌倉時代）
学年末考査		・世界の諸地域③ ・中世の日本（室町時代）	
評価の観点・評価の方法	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 上記3項目について、授業への取組（ノート・発表等）、自主学習、レポート、単元テスト、定期考査の結果で総合的に評価する。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	様々な出来事や課題を図や資料、グラフなどから考え、理解していく力をつけていきましょう。また、知識の定着だけではなく、自分の言葉で説明できる力や問題に何度も挑戦する力をつけていきましょう。		

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	1 歴史へのとびら	10	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習の基礎知識 ・時期や年代の表し方 ・時代の移り変わりのとらえかた 	
	5	(i) 世界と日本の地域構成 ア 世界の姿 《第1回考査》	18	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々 ・地球の姿(三大洋、六大陸・州) ・緯度と経度 ・地球儀と世界地図の違い 	
		2 古代までの日本① イ 日本の姿	10	<ul style="list-style-type: none"> ・人類の出現と進化 ・文明のはじまり ・縄文時代の暮らしと弥生時代の暮らし 	
	6	3 古代までの日本②	7	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の中での日本の位置 ・時差でとらえる日本の位置 ・日本の領域とその特色 ・都道府県と県庁所在地 	
	7	ウ 人々の生活と環境 世界の諸地域① 《第2回考査》	15	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家への歩み ・奈良時代の人々の暮らし ・平安京と律令国家の変化 ・歴史新聞をつくろう(原始・古代編) 	
	9	4 中世の日本①	16	<ul style="list-style-type: none"> ※アジア、ヨーロッパ、アフリカ州に関して、生活の様子を把握できる地理的事象を考察する。 ・自然環境 ・産業と文化 ・地域的課題 	
			14	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の成立 ・武士と民衆の生活 ・鎌倉時代の文化と宗教 	
	後期	10	ウ 世界の諸地域② 《第3回考査》	19	<ul style="list-style-type: none"> ※北アメリカ、南アメリカ、オセアニア二州に関して、生活の様子を把握できる地理的事象を考察する。 ・自然環境 ・産業と文化 ・地域的課題
		11	5 中世の日本②	20	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル帝国とユーラシア世界 ・南北朝の動乱と室町幕府 ・東アジアとの交流 ・産業の発達と民衆の生活 ・応仁の乱と戦国大名 ・室町文化とその広がり
12		6 近世の日本① 《第4回考査》	14	<ul style="list-style-type: none"> ・中世ヨーロッパとイスラム世界 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・織田信長・豊臣秀吉の統一事業 	
1					
2		《学年末考査》			
3		エ 世界の様々な地域の調査	6	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な主題を設定して、調査発表をする学習 	
			総時間数	136	

教科名	年間授業時数	学年
数学	175	1
授業形態	指導者名	
一斉授業	岡田紘典、松本拓磨	

教科書(発行所)	新しい数学1	(東京書籍)
教科書以外の教材(発行所)	体系数学1 代数編	(数研出版)
	体系数学1 幾何編	(数研出版)
	体系問題集1代数編 発展 完成ノート	(数研出版)
	体系問題集1幾何編 発展 完成ノート	(数研出版)

目 標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>		
学習のねらい	<p>1 「数と式」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な場面を通して、正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。 文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を培うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。 方程式や不等式について理解し、一元一次方程式、連立二元一次方程式や不等式を用いて考察することができるようにする。 <p>2 「図形」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察、操作や実験などの活動を通して、見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりして平面図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。 観察、操作や実験などの活動を通して、空間図形についての理解を深めるとともに、図形の計量についての能力を伸ばす。 <p>3 「関数」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例、一次関数の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。 		
定期考査	出題方針	教科書の内容、問題集を中心に出题する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	正の数と負の数
		第2回考査	式の計算、方程式
		第3回考査	不等式、関数
		第4回考査	関数、平面図形(一部)
年度末考査	平面図形、空間図形		
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は「知識・理解」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。</p> <p>具体的な評価は、定期考査、授業への取り組み、小テスト、提出物の状況等から総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>予習については、教科書の内容をあらかじめ見ておくだけでも違います。予習をして授業に臨むようにしましょう。復習については、問題集を中心にその日に習った内容の問題をできるだけたくさん解いて自分のものにしていきましょう。授業には、しっかり集中して臨み、わからないことはその場で先生に質問するか、休み時間、放課後等を利用して質問にすることで、その日のうちに理解するように心がけましょう。ノートについては、黒板を写すだけでなく、自分で気づいたことや先生が説明した内容で重要だと思ったことは自分の言葉でしっかりと書き込んでおいて、後から確認して分かりやすいノートとなるように工夫してみましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	正の数と負の数 加法と減法 乗法と除法 四則の混じった計算	3 5 5	<ul style="list-style-type: none"> 正の数、負の数の性質や関係を調べることができるようにする。 正の数、負の数の四則計算の意味を正しく理解し、計算ができるようにする。
	5	章末問題 文字式 《第1回考査》	4 4 3	
	6	多項式の計算 単項式の乗法と除法 文字式の利用 章末問題	4 4 5 4	<ul style="list-style-type: none"> 多項式の加法・減法の計算や数と1次式の乗法の計算、単項式の乗法、除法の計算が正しくできるようにする。
	7	方程式とその解 1次方程式の解き方 連立方程式 方程式の利用 章末問題 《第2回考査》	2 4 5 4 4	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を見だし、それにもとづいて方程式を変形して解くことができるようにする。 方程式を能率よく解くことができるようにする。 方程式を利用して、問題を解決することができるようにする。
	8 9	不等式の性質 不等式の解き方 不等式の利用 連立不等式 章末問題	3 3 4 3 3	<ul style="list-style-type: none"> 不等式の性質を見だし、それにもとづいて不等式を変形して解くことができるようにする。 不等式を利用して、問題を解決することができるようにする。
後期	10	変化と関数 比例・反比例とグラフ	2 7	<ul style="list-style-type: none"> 表、式、グラフを用いて、比例、反比例、1次関数の特徴を調べることができるようにする。
	11	比例・反比例の利用 1次関数とグラフ 1次関数と方程式 《第3回考査》	4 4 4	<ul style="list-style-type: none"> 関数的な見方や考え方で、2元1次方程式を見直すことができるようにする。
	12	1次関数の利用 章末問題	10 7	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の考察に、1次関数を活用することができるようにする。
	1	平面図形の基礎 対称な図形 図形の移動 《第4回考査》	4 4 3	<ul style="list-style-type: none"> 線対称、点対称の意味を理解し、平面図形を対称性に着目して調べることができるようにする。
	2	作図 面積と長さ 章末問題	6 5 4	<ul style="list-style-type: none"> 角の二等分線などの作図の方法を理解し、作図することができるようにする。 さまざまな図形の面積や長さを求めることができるようにする。
	3	いろいろな立体 空間における平面と直線 立体のいろいろな見方 立体の表面積と体積 《学年末考査》	3 5 5 7	<ul style="list-style-type: none"> 空間図形を直線や平面の運動によって構成することができるようにする。 空間図形を平面上に見取図や展開図を用いて表現することができるようにする。 基本的な柱体、錐体の表面積と体積を求めることができるようにする。
	3	章末問題 1年生のまとめ	7 8	
総時間数			175	

教科名		年間授業時数	学年
理科		136	1
授業形態		指導者名	
一斉授業		松末 昌樹	

教科書(発行所)	未来へひろがるサイエンス 1 (啓林館)
教科書以外の教材(発行所)	新中学問題集理科1年 (教育開発出版(株))

目 標	<p>自然の事物・現象にかかわり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のように育成する。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。</p>		
学習のねらい	<p>[生命] 身近な生物についての観察・実験を通して、生物の調べ方の基礎を学習するとともに、生物の体のつくりやそのはたらきを理解し、生物の世界についての総合的な認識を深める。</p> <p>[地球] 大地の成り立ちと、変化に関する探究的な学習を通して、地表にみられる事物・現象と関連付けながら、絶えず活動し続ける地球の姿についての理解を深めるとともに、観察、実験を行うための基本的な技能の習得、科学的な探究に必要な思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度を養う。</p> <p>[物質] 身のまわりの物質に関する探究的な活動を通して、物質のもつ基本的な性質の理解を深めるとともに、観察、実験を行うための基本的な技能の習得、科学的な探究に必要な思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度を養う。</p> <p>[エネルギー] 身近な物理現象に興味をもち、探究的な活動を通して、光・音・力に関する基礎的・基本的な性質への理解を深めるとともに、規則性や関係性を調べる観察や実験における基礎的操作や技能を身につける。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	「生命」自然の中にあふれる生命 (問題集、実験・観察)
		第2回考査	「生命」自然の中にあふれる生命 「物質」身のまわりの物質 (問題集、実験・観察)
		第3回考査	「物質」身のまわりの物質 「エネルギー」光・音・力による現象 (問題集、実験・観察)
		第4回考査	「エネルギー」光・音・力による現象 「地球」活きている地球 (問題集、実験・観察)
学年末考査		「地球」活きている地球 1年間のまとめ (問題集、実験・観察)	
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、自然事象への理解と科学的に探求するための技能、科学的に探求するために必要な思考・判断・表現、主体的に自然の事象に関わる態度の3項目とする。</p> <p>○評価の方法は、学習のまとまりごとの記述内容と定期考査、授業への取り組みのようす、課題の提出などをもとに、総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートを取り方など)	<p>理科の学習は、自然の事物・現象のなかに隠れている「理」について学んでいく学問です。日常生活で身のまわりのことに対して、「なぜだろう」と考えながら注意して観ること、自分の意見を積極的に述べたり、友だちの意見にも耳を傾けながら現象について考えたりすることが必要です。また、実験・観察を通して得られたことを図やグラフを書いて事実に合わせて考察し発表する態度を身につけることも大切です。</p>		

年間授業計画表

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	自然の中にあふれる生命 生物のなかま分け	8	○校庭や学校周辺の生物の観察を通し、いろいろな生物がさまざまな場所に生活していることを見いだして理解するとともに、基本的な観察技能、観察記録のしかたを身につける。 ○生物の共通点と相違点に着目しながら、分類についての基礎を身につける。
	5	「生命」いろいろな生物とその共通点 単元導入 学ぶ前にトライ！	(24) 1	○身近な植物の外部形態の観察を行い、共通点や相違点を見だし、植物の体の基本的なつくりを理解するとともに、その共通点や相違点で植物を分類できることを理解する。 ○植物に対する興味・関心をもち、植物を観察するときどのような点に着目すればよいかを考える力を身につける。
		1章 植物の特徴と分類 2章 動物の特徴と分類	10 11	
	6	力だめし、学んだ後にリトライ！	2	○身近な動物の外部形態の観察を行い、共通点や相違点を見だし、動物の体の基本的なつくりを理解するとともに、その共通点や相違点で動物を分類できることを理解する。 ○動物に対する興味・関心をもち、動物を観察するときどのような点に着目すればよいかを考える力を身につける。
		「物質」身のまわりの物質	(37)	
	7	単元導入 学ぶ前にトライ！ 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質 3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化	1 9 8 8 9	○身のまわりの物質の性質をさまざまな方法で調べ、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを理解する。 ○実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身につける。 ○気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解する。 ○気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。
	8 9	力だめし 学んだ後にリトライ！	2	○物質が水に溶ける際の水溶液の均一性を粒子のモデルで理解する。 ○水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連づけて理解する。
				○物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを理解する。 ○物質の融点や沸点を境に状態が変化することや沸点の違いによって物質の分離ができることを見いださせる。
		「エネルギー」光・音・力による現象	(33)	○光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだす。 ○凸レンズのはたらきについての実験を行い、物体の位置と像の位置および像の大きさの関係を見いだす。
	後期	11	単元導入 学ぶ前にトライ！ 1章 光による現象 2章 音による現象 3章 力による現象	1 11 8 11
12		力だめし 学んだ後にリトライ！	2	○物体に力をはたらかせる実験を行い、物体に力がはたらくと物体を変形させる、物体の運動のようすが変わる、物体を支えることを見いだす。 ○力は大きさと向きと作用点によって表されることを理解する。 ○2力のつり合いの実験を行い、1つの物体にはたらく2力がつり合う条件を理解する。
		「地球」活きている地球	(34)	○地形などの観察を通して、大地の成り立ちなどを理解する。 ○観察器具の基本的な扱い方などを身につける。
2		単元導入 学ぶ前にトライ！ 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地 4章 語る大地	1 5 7 10 9	○地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解し、記録の分析により地震のゆれの伝わり方の規則性を見いだす。 ○地震の原因などをプレートの動きと関連付けて理解する。 ○さまざまな火山の活動を調べさせ、それらの様子はマグマの性質が深く関係していることを考察する。 ○マグマからできる火成岩の特徴を、成因と関連付けて理解する。
3		力だめし 学んだ後にリトライ！	2	○地層の重なり方や広がり方の規則性を捉え、構成する岩石や化石をもとに、地層が堆積した時代や当時の環境を推測することを通して、地層のでき方を理解する。 ○プレートと火山活動や地震などとの関連を総合的にとらえ、大地からの恵みや災害について理解する。
	総時間数	136		

教科名		年間授業時数	学年
音楽		58.5	1
授業形態		指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		川上由紀・長岡佐和	

教科書（発行所）	中学生の音楽1 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社)
教科書以外の教材（発行所）	音楽のハーモニー1年 (正進社)

目 標	音楽活動の喜びや感動を体験させるとともに、進んで音楽活動をしよ うとする意欲を養う。		
学習のねらい	<p>1 歌唱 豊かな響きを工夫し、言葉の抑揚やリズムを生かして美しい発音で歌う。 他の声部や、全体の響きに気をつけて合唱する。</p> <p>2 器楽 楽器の基礎的な奏法を身につけ、美しい音色を工夫して演奏する。 伴奏の形やとけ合いを意識して合奏表現ができる。</p> <p>3 創作 歌詞や楽器にふさわしい旋律を創り、表現する。 リズムフレーズや短い旋律を創る。</p> <p>4 鑑賞 楽曲の雰囲気や曲想と諸要素の働き、声や楽器の音色と組み合わせによ る響きと効果、我が国及び諸外国の民族音楽の特徴などを感じ取っ て聴く。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、音楽のハーモニー、プリントなどから出題す る。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	無し
		第2回考査	校歌、既習曲、春、魔王、日本・アジアの民謡、リコ ーダー奏法・運指
		第3回考査	無し
		第4回考査	無し
学年末考査		浜辺の歌、赤とんぼ、越天楽、六段、既習曲、リコ ーダー運指	
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度 の3項目とする。</p> <p>○具体的な評価は、授業への取り組み、ノート、授業プリントの提出状況、 歌のテスト、リコーダーのテストなどを総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	<p>・音楽の世界は、範囲も種類も広く、日常親しんでいる音楽も多岐にわ た っ て様々です。いろいろな種類の、いろいろな様式の音楽に興味、 関心 をもち、知識・技能などを意欲的に学んでいきましょう。</p> <p>・歌唱、器楽及び創作の活動を、単に楽譜上の記号を音に変換する行為 に してしまわず、歌ったり、演奏したりすることが、自分の生活の中 での 驚き、発見、喜び等を思い起こすものになるように積極的に活動 してい きましょう。</p> <p>・基礎、基本を身につけ、個々の目標や課題を見つけて楽しく音楽にか かわっていきましょう。</p> <p>・毎時間忘れものをせず、提出物（ノート、プリント）を必ず出すよう に してください。</p>		

年間授業計画表 (45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前 期	4	思いを込めて歌おう。 ・ We'll Find The Way ・ その先へ ・ My Voice ・ 校歌	8	希望を胸に、明るくおおらかに歌う。 互いの歌声の響き合いを楽しむ。
	5	曲の構成を感じ取って歌唱表現を工夫しよう。 ・ 主は冷たい土の中に 曲想を感じ取って器楽表現を工夫しよう。 ・ 聖者の行進	6	曲のまとまりやハーモニーの変化を感じ取る。 パートの役割や旋律の重なり方の特徴を感じ取る。
	6	音楽の特徴に注目して聴こう。 ・ 和声と創意の試み「四季」より春	7	標題を手がかりに、音楽の内容や音楽による表現のすばらしさを感じ取る。曲の構成に気をつけながら曲想の変化を感じ取る。
	7	曲想やパートの役割を感じて歌唱表現をしよう。 ・ 朝の風に ・ 君をのせて 曲想と音楽の構造との関わりを理解して聴こう。 ・ 魔王	7	曲のまとまりやハーモニーの変化を感じ取る。 パートの役割や旋律の重なり方の特徴を感じ取る。 歌詞の内容を感じ取り拍の流れにのって歌う。 日本語の美しさを生かした旋律、伴奏の形に関心を持ちながら表現する。 旋律と伴奏が一体となった曲想を感じ取る。
	8	日本の民謡やアジアの諸民族の音楽の特徴を感じ取ってその魅力を味わおう。 ・ 日本の民謡 ・ 生活や社会の中の音楽 ・ アジアの諸民族の音楽 ・ ソーラン節	8	劇的な音楽の内容や、曲想の変化・表現の効果などを感じ取る。 日本の民謡やアジアの諸民族の音楽の特徴をとらえることで、音楽の多様性を感じ取り、そのよさや美しさを味わう。
	5	リコーダーに親しもう。 この教材は器楽の教科書のリコーダー曲を継続して行う。		アルトリコーダーの基本的な奏法を身に付け正しいリズムと音程で簡単な楽曲を演奏する。
	9	日本の歌のよさや美しさを感じ取って表現をしよう。 ・ 浜辺の歌	6	歌詞と音楽を形づくっている要素との関わりを感じ取る。 速度や強弱の変化を生かした表現する。
	後 期	10	・ 赤とんぼ ・ 歌い継ごう日本の歌	4
11		日本に古くから伝わる合奏に親しみ、その魅力を味わおう。 ・ 雅楽『平調 越天楽』	5	日本の伝統音楽に使われる楽器の音色の美しさを味わう。
12		箏曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう。 ・ 箏曲『六段』	4	楽器の音色や独特な奏法を味わい、日本の楽器の音楽に親しむ。
1		曲の構成や曲想の変化を生かして歌唱表現を工夫しよう。 ・ Let's Search For Tomorrow ・ 心の通う歌	7	全体の響きや各声部を聞きながら他者と合わせて歌う技能を身につける。
3		・ 卒業式に向けて	4	各声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱をする。
		総時間数	58	

教科名	年間授業時数	学年
美術	58.5	1
授業形態	指導者名	
一斉授業	森 邦生	

教科書（発行所）	美術1 美術との出会いと広がり（日本文教出版）
教科書以外の教材（発行所）	美術資料（秀学社）

目 標	描く活動とつくる活動を経験することで創作する楽しさを味わう。自然や身近なものを観察する力、自分がそこに何を感じるかを重視し、それをどのように表現するか考えられる基礎的技能を学ぶ。また鑑賞を通して自然や美術作品についての理解や見方を広げ、自身の創作活動に生かせるようにする。		
学習のねらい	<p>1 絵画・彫刻などの活動を通して 自然や身近なものを観察し、形や色彩や光がつくり出す美しさをとらえ表現することを学ぶ。また対象を深く見つめることで、ものの見え方感じ方を味わい、自分らしい感じ方・個性を表現する。</p> <p>2 デザイン・工芸などの活動を通して 形や色彩、材料、光がもたらす効果や感情を理解し、機能的な生かし方を考え、美しく構成することを学ぶ。その中で自分が表現したいイメージを発想し構想を練り、作り方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付ける。また意図に応じて工夫して表現することを学ぶ。</p> <p>3 鑑賞 美術作品や自然、生活の中の造形などの鑑賞に親しみ、よさや美しさを味わい、造形的な視点を養う。またクラスメイトの作品に対して、心情や表現の意図、工夫について考え、自身の表現との違いに興味を持ち・認め・楽しむことを学ぶ。</p>		
定期考査	出題方針	授業で制作したことや説明した内容、教科書・美術資料・プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	鉛筆の技法、色の属性、絵の具の性質・技法、鑑賞問題
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
	学年末考査	文字のデザイン、彫塑、構成デザイン、実技問題	
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、造形的な知識及び技能の習得、創造的な思考・判断・表現の能力、創作活動に主体的に取り組む態度の3項目とする。</p> <p>○準備物や授業での態度・真剣に創意工夫しようとする姿勢・見通しを持った創作活動など制作過程での観点別達成度、作品の出来映え、感想文による鑑賞能力の3つのポイントを統合して評価する。</p>		

<p>先生からアドバイス (予習・復習・授業の 受け方など)</p>	<p>表現することに「上手」「下手」はありません。技術的に達者であればより豊かな表現ができますが、それだけで「作品の魅力」につながらないところが美術の面白く、また素晴らしいところです。</p> <p>「うまく描くこと」よりも「自分が感じたことに忠実に表現できたか」の方が大事です。純粋な気持ちで目の前の真っさらな紙に臨んでみましょう。</p> <p>授業ではのびのびと制作できるように、完成度よりも制作のプロセスを楽しめることを主眼にしていきます。表現することの楽しさを感じて欲しいです。</p>
--	--

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	「オリエンテーション」 ・講師の自己紹介と一年間の学習の流れを聞く。 「五感を働かせて」(絵画) ・五感で感じるものを、色鉛筆を使い色と形で表す。	1 1	・一年間の学習のイメージをつかんでもらう。 ・五感で感じるものを、色の効果を考え、形を想像しながら色鉛筆の技法で表現する。
	5	「鉛筆デッサン」(絵画) ・鉛筆の削り方と描画技法を学ぶ。 ・鉛筆の技法を生かして石膏をデッサンする。	3	・日常使い慣れた鉛筆から絵画の様々な技法を学ぶ。 ・石膏の特徴・光・陰影・質感をつかみ、立体感の表現の仕方を学ぶ。
	6	「様々なデッサン(鑑賞)」 ・様々な美術作品のデッサンを鑑賞する。	1	・デッサン作品を鑑賞し、作者の心情、表現の仕方・工夫について考え、作品の見方・感じ方を広げる。
		「絵の具の性質と使い方、水彩の技法」 ・絵の具や用具の基本的な使い方を学ぶ。 ・水彩の基本技法とモダンテクニックを学ぶ。 《第2回考査》	4	・絵の具の種類と性質を学ぶ。初めて使うアクリル絵の具について理解する。 ・水分量のコントロールの仕方や様々な技法を実践する。
	7	「想像力を働かせて構成しよう」(絵画) ・水彩技法を生かしてコラージュ作品を制作する。	3	・モダンテクニックの作品から想像力を働かせ、テーマを生み出してコラージュ作品を制作する。
		「色を感じて」(鑑賞・絵画) ・色の属性や働き、三原色について学ぶ。	2	・色の性質、感情にもたらす効果を理解する。
	8	「文字のデザイン」(デザイン) ・『永』を描き、レタリングの基礎を知る。 ・文字の形や意味からイメージを広げ絵文字を制作する。	8	・漢字の多様な書体を鑑賞し、記録媒体と目的によってデザインされていることを感じ取る。 ・漢字の意味を効果的に伝える色や形を工夫して構想する。絵の具の使い方・技法を生かして制作する。
	9	「粘土で立体造形」(彫塑)		

後 期	10	<ul style="list-style-type: none"> ・手を題材に粘土で立体作品を制作する。 ・イラスト入門 (デザイン) 	1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の手をスケッチし、形や質感・量感などの特徴をとらえ、材料・用具を工夫して表現する。 ・イラストレーターの仕事内容と描くコツを学ぶ。
	11	<p>「伝統工芸を知る」(鑑賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱根寄木細工とその制作過程を鑑賞する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸のよさや美しさを感じるとともに、鑑賞され使われるもの、受け継がれているものとしての価値を学ぶ。
	12	<p>「木作品を装飾しよう」(デザイン・工芸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術科で制作した木作品に合わせ、ウッドシートを使い、自分らしい色や形を考えて構成し制作する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・木作品を飾る形をイメージし、構成を工夫する。 ・ウッドシートの特性を理解して、加工方法や用具などを適切に考えて制作する。
	1	《学年末考査》	14	<ul style="list-style-type: none"> ・切り抜き作業、木作品への接着、ニス塗りまで粘り強く、また見通しを立てて制作することを学ぶ。
	2 3	<p>「つながる模様」(デザイン・鑑賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な模様のデザインを鑑賞し、模様のデザインを構想して簡潔に表現する。 ・できた模様を様々な組合わせて鑑賞・撮影する。 	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・模様のデザインの面白さ、モチーフの簡略化などを学ぶ。 ・模様のデザインを構想する中で表現の工夫の仕方を学ぶ。
		総 時 間 数	58. 5	

教化名	年間授業時数	学年
保健体育	保健 17時間 体育 100時間 計 117時間	1
授業形態	指導者名	
2クラス合同・1クラス単独・3学年合同(縦割り)	内藤 貴子・鈴木 浩司	

教科書(発行所)	保健体育(大修館)
教科書以外の教材(発行所)	体育実技書(学研)

<p>目標</p> <p>学習のねらい</p>	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p> <p>《体育分野》</p> <p>1 体づくり運動 自己の体力や生活に応じて、どのような運動をすればいいかを工夫する。 ①自己の体に気付く ②自己の体の調子を整える ③仲間と交流する</p> <p>2 器械運動 自己の能力に応じて、各運動種目の「技がよりよくできる」ことをねらいとし、自己の能力に適した技に挑み、その課題を解決していくことで喜びを味わう。</p> <p>3 陸上競技 速く走る・遠くへ(高く)跳ぶ・遠くへ投げることをねらいとし、自己記録の向上の喜びや仲間と競争する楽しさを味わう。</p> <p>4 球技 集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、攻防の作戦を立てて、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。</p> <p>5 武道 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。</p> <p>6 ダンス 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができるようにする。</p> <p>7 体育に関する知識 各種の運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方について理解するとともに、自己の生活の中での生かし方を理解する体ほぐしの意義と行い方及び体力の意義と体力の高め方について理解する。また、運動の心身にわたる効果について理解する。</p> <p>《保健分野》</p> <p>1 運動やスポーツの多様性 (1) 運動やスポーツが多様であることについて理解すること。 (ア) 運動やスポーツは、体を動かしたり健康を維持したりするなどの必要性及び競い合うことや課題を達成することなどの楽しさから生みだされ発展してきたこと。 (イ) 運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えること及び知ることなどの多様な関わり方があること。 (ウ) 世代や機会に応じて、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己</p>
-------------------------	--

- に適した多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であること。
- (2) 運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。
- (3) 運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組むこと。

2 調和のとれた生活

- (1) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。
- (ア) 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因が関わり合って発生すること。
- (イ) 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。
- (ウ) 生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病の多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。

3 心身の発達と心の健康

- (1) 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。
- (ア) 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期的程度には、個人差があること。
- (イ) 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。
- (ウ) 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。
- (エ) 精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。
- (2) 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

定期考査	出題方針	・教科書の内容を中心に、資料集・教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	体づくり運動・陸上競技・球技・保健など
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
学年末考査		器械運動・武道・陸上競技・球技・ダンス・保健 など	
評価の観点 ・評価の方法	<p>・評価の観点は、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度、の3項目とする。</p> <p>《体育分野》</p> <p>・評価の方法は、自己評価・相互評価・レポート提出・運動技能テスト・出席状況等により、総合的に寒天別に評価する。</p> <p>・毎時間が評価の対象であり、数回の技能テストも行う。</p> <p>《保健分野》</p> <p>・評価の方法は、定期考査、ノート提出、レポート提出、出席状況等により、総合的に観点別に評価する。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)	<p>《体育分野》</p> <p>・更衣を早くし、授業には遅刻しない。</p> <p>・体調の自己管理をし、体調の悪いときには担当教師に申し出る。</p> <p>・忘れ物をしない。</p> <p>《保健分野》</p> <p>・提出物は必ず出す</p> <p>レポート・ノート等の点数の配点は、大きいので気をつける。</p> <p>・忘れ物をしない。</p>		

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	・体づくり運動(体ほぐしの運動)	6	・自己の体に気付き、仲間と交流する。
	5	・体づくり運動(体力を高める運動)	6	・互いに協力しながら、体力を高める。
	6	・陸上競技(短距離走・リレー)	12	・安全に留意し、基本技術を習得する。
		・運動やスポーツの多様性	4	・互いに協力しながら、手際よく測定できるようにする。
	7	・球技(選択:バドミントン)	8	・運動について理解を深める。
		(選択:テニス)		・安全に留意し、互いに協力しながら、練習・ゲームを行う。
		《第2回考査》		
	8 9	・ダンス(フォークダンス)	6	・互いに協力しながら練習を行う。 上級生と下級生の交流を深める。
		・器械運動(マット運動・跳び箱運動)	14	・安全に留意し、互いに協力しながら、練習を行う。
	・武道(剣道)		・常に技術習得を意識しながら、練習を行う。	
	・調和のとれた生活	6	・安全に留意し、基本技術を習得する。 ・生活の中での生かし方を理解する。	
後期	10	・武道(剣道)	14	・安全に留意し、基本技術を習得する。
	11	・器械運動(マット運動・跳び箱運動)		・安全に留意し、互いに協力しながら、練習を行う。
	12 1	・心身の発達と心の健康	10	・常に技術習得を意識しながら、練習を行う。
				・生活の中での生かし方を理解する。
	2	・陸上競技(長距離走)	15	・自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを大きな目標とする。
		・球技(男子:サッカー) (女子:ソフトボール)	16	・生涯体育に向けて、自ら進んで体を動かすようにする。
3	《学年末考査》		・安全に留意し、互いに協力しながら、練習・ゲームを行う。	
			・常に技術習得を意識しながら、練習・ゲームを行う。 また、チーム内での役割分担を行う。	
総時間数			117	体育 98時間 保健 19時間

教科名	年間授業時数	学年
技術・家庭科（技術分野）	39	1
授業形態	指導者名	
一斉授業	木挽屋 菜摘	

教科書（発行所）	技術・家庭 技術分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	技術・家庭ノート（開隆堂）

目 標	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。		
学習のねらい	<p>A 材料と加工の技術</p> <p>(1) 生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。</p> <p>イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。</p> <p>(2) 生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができること。</p> <p>イ 問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること</p> <p>(3) これからの社会の発展と材料と加工の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。</p> <p>イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、技術・家庭ノート、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	実施しない
		第2回考査	生活や社会における技術の役割 A 材料と加工の技術 ・ものづくりの工夫と進め方・材料・設計・製作（切断まで）
		第3回考査	実施しない
		第4回考査	実施しない
	学年末考査	A 材料と加工の技術 ・製作・材料と加工に関する技術とわたしたち	
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3項目である。</p> <p>○具体的な評価は、定期考査、技術・家庭ノート、授業中での作品、教材プリント、レポートなどを適正に活用して総合的に行う。また必要に応じて自己評価も取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>技術は、実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータの活用や情報モラルに関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、ものづくりや情報に関する学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにかされる技術的素養を身につける学習です。</p> <p>技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を身につけることが大切です。学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにかされる技術的素養を身につけましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	○ガイダンス ・技術とわたしたちの生活	1	・小学校の学習の振り返り ・身近な生活にはどのような技術があるかを知る。 ・技術が生活の向上や産業の発展に影響を及ぼしてことを知る。 ・持続可能な社会の必要性和技術とのかかわりについて知る。
		○情報の技術	2	・コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを知る。 ・情報に関する技術の適切な評価・活用について考える。
	5	○材料と加工の技術 ●ものづくりの工夫と進め方 ・製品の工夫と技術の進歩	1	・技術分野で3年間を見通した学習内容をイメージする。 ・技術の進歩について考える。 ・ものづくりの進め方について知る。
	6	●材料 ・さまざまな材料 ・材料の特徴 ・材料と環境のかかわり	3	・身の回りにある製品に使われている材料の種類を知る。 ・木材・金属・プラスチック、それぞれの特徴を知る。 ・製品の用途や使いやすさを考える。 ・材料と環境のかかわりを知り、材料の使い方について考える。
	7	●設計 ・設計の進め方 ・使用の目的と製品の決定 ・材料、機能、構造を考える ・加工方法、接合方法と仕上げ方法を考える ・製図	4	・ものづくりに取り組むときに必要な設計の進め方を理解する。 ・使用の目的から、大きさ、使いやすさ、などの機能を考える。 ・じょうぶにするための構造を理解し、製作品の構造を考える。 ・さまざまな種類の材料の特徴を知る。 ・さまざまな加工法を知り、製作品の加工方法を考える。 ・接合方法を知り、製作品の接合方法を考える
	9	《第2回考査》 ●製作 ・製作の進め方 ・部品表と工程表 ・けがき	2 2	・作品を図に表す方法を理解し、構想を図に表す。 ・製作品の製作の進め方を理解する。 ・部品表、材料取り図、工程表を書く。 ・けがきの役割と、切りしろ、けずりしろの必要性を知りけがく。
後期	10	・切断、切削 ・穴あけ、ねじ切り ・部品の検査と修正、組立て	3	・のこぎりの構造やしくみを理解し、正確にのこぎりびきをする。 ・仕上がりが寸法線まで木材を削る技術を理解し、正確に削ることができる。 ・穴あけのしくみを理解し、正確な穴あけをする。 ・さしがね、直角定規で部品の検査と修正をする。 ・接合方法と手順を確認しながら正確に組立てをする。 ・製作品の表面や角の仕上げをする。
	11	・表面と角の仕上げ		
	12	●材料と加工に関するわたしたち		
	1	・社会・環境とのかかわり ・材料と加工に関する技術とわたしたちの未来	3	・材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割について考え、理解を深める。 ・材料と加工に関する技術を適切に評価し、活用しようとする態度を身につける。 ・材料と加工に関する技術の学習を振り返り、技術との付き合い方を考える。
	2	《学年末考査》		
	3	●学習のまとめ ・製作の振り返り		
		総時間数	39	

教科名	技術・家庭科 (家庭分野)	年間授業時数	39	学年	1
授業形態	前期：一斉授業 後期：一斉授業	指導者名	小山有紀		

教科書 (発行所)	技術・家庭 家庭分野 (開隆堂)
教科書以外の教材 (発行所)	中学校技術・家庭科用 技・家ノート 家庭分野 (開隆堂)

目 標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする 実践的な態度を養う。</p>		
学 習 の ね ら い	<p>A 家族・家庭生活</p> <p>(1) 自分の成長と家族・家庭生活</p> <p>ア 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。</p> <p>B 衣食住の生活 (食生活)</p> <p>(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(イ) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。</p> <p>(ロ) 中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康によい食習慣について理解すること。</p> <p>イ 健康によい食習慣について考え、工夫すること。</p> <p>(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(イ) 栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解すること。</p> <p>(ロ) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解すること。</p> <p>イ 中学生の1日分の献立について考え、工夫すること。</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食文化</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(イ) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。</p> <p>(ロ) 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解し、適切にできること。</p> <p>(ハ) 材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。</p> <p>(ニ) 地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること。</p> <p>イ 日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。</p>		
定 期 考 査	出題方針	教科書とノートの内容を中心にプリント、ワークシートからも出題する。	
	範 囲 (予定)	第2回考査	<ul style="list-style-type: none"> 自分の成長と家族・家庭生活 食事の役割と中学生の栄養の特徴
		学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に必要な栄養を満たす食事 日常食の調理と地域の食文化
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 評価の観点は家庭科の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3点とする。 授業への取り組み方、発表・プレゼン・レポート、ワークシートの記述等から総合的に評価する。 		
先生からのアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートのとり方など)	<ul style="list-style-type: none"> 忘れ物をしない。・時間を守る。 ・人の話を集中して聞く。 課題をきちんと行い提出する。 ・学習内容を家庭で実践する。 自らの家庭生活を見つめ、家庭生活に対する課題や考えをもつ。 		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
	4	○家庭分野のガイダンス	1	・小学校家庭科の学習をふり返るとともに、3学年間の学習内容の見直しをもつ。	
	5	○自分の成長と家族・家庭生活 ①今の自分とこれまで	1	・自分の成長と家族や地域の人びとのかかわりと自分自身の理解を深める。 ・家庭での活動を考え、家族・家庭の基本的な機能について理解する。	
		②わたしの生活と家族・家庭	1		
	6	○食事の役割と食習慣 ①食事の役割	1	・食事の役割について理解し、毎日の食事に関心をもつ。 ・健康に良い食事について学び、規則正しく食事をとることの重要性を理解する。	
		②健康によい食習慣	1		
		○中学生に必要な栄養を満たす食事 ①中学生の発達と必要な栄養 ②栄養素のはたらきと6つの基礎食品群 ③栄養バランスを目で見て判断	2 2 2		・中学生の時期の身体的特徴を理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる ・食品は栄養的特質により食品群に分類されることを理解する。 ・中学生が1日にとりたい食品と分量を知る。 ・1回の食事を目で見て栄養のバランスがとれているか判断できるようにする。
	〈第2回考査〉				
	7	○さまざまな食品とその選択			
	8	①生鮮食品の選択と保存	2	・生鮮食品の特徴がわかる。	
	9	②加工食品の選択 ③食品の安全と情報	2 2	・目的に応じて生鮮食品を選択・保存できる。 ・食品を選択するとき、食品の安全や情報に関心をもって選択できる。	
	10	○日常食の調理 ①調理の計画	1	・調理の流れと手順がわかり、計画を立てることができる。	
	11	②おいしさと調理	2	・おいしさと調理の関係や調理における衛生と安全を理解し実践できるようにする。	
		③ますます好きになる肉の調理	2	・肉の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、肉を調理することができる。	
		④こんなにおいしい魚の調理	2	・魚の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。	
	12	⑤好きになる野菜の調理	2	・野菜の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。	
	1	○地域の食文化 地域の食文化	3	・地域で生産される食材を知り、それを使う意義と和食の調理を理解する。	
	2	○調理実習 ①豚肉のしょうが焼き	3	・肉の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、肉を調理することができる。	
		②鮭のムニエル	3	・魚の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。	
	〈年度末考査〉				
	2	○生活の課題と実践	4	・今まで学習してきた「衣食住の生活」の中からほかの内容とも関連させて課題を設定して、課題解決に向けて計画を立て実践できる。 ・実践したことをまとめ、発表し、よりよい生活にするための新たな課題を見つけ次の実践につなげられる。	
3					
総時数			39		

教科名		年間授業時数	学年
英語 (英語・英語C)		176	1
授業形態		指導者名	
一斉授業		吉本亜希穂・Lucian Glenny	

検定教科書 (発行所)	NEW HORIZON English Course 1 (東京書籍)
教科書以外の教材 (発行所)	Listening trial Stage0 (文英堂) 実力練成テキスト1 (文理) 中高一貫テキスト NEW TREASURE Stage1 Third Edition (Z会出版) NEW TREASURE 文法問題集1 (Z会出版)

目標	外国語 (英語) によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと (やりとり) (発表)」、「書くこと」の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の4技能5領域 (「聞くこと」「話すこと (やりとり) (発表)」「読むこと」「書くこと」) をバランスよく学習する。 ・150語程度のまとまった英語を聞いて、その内容を理解することができる。 ・質問・応答・紹介・言い換え・論理的な自己表現などができる。 ・200語程度のまとまった英語を読んで、その内容を理解することができる。 ・基本的な文法・語彙を使って、100語程度のまとまった英語を書くことができる。 		
定期考査	出題方針	中高一貫テキストNEW TREASURE の内容を中心に、検定教科書にも触れながら、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。 Listening Comprehension は必ず行う方針である。	
	範囲 (予定)	第1回考査	フォニックス、中高一貫テキストLesson1 検定教科書内容
		第2回考査	中高一貫テキストLesson2~3 検定教科書内容
		第3回考査	中高一貫テキストLesson4~6 検定教科書内容
		第4回考査	中高一貫テキストLesson7~8 検定教科書内容
学年末考査		中高一貫テキストLesson9~10 検定教科書内容	
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3項目とする。</p> <p>具体的な評価は、定期考査、単元テスト、授業プリントの記入と提出、その他の提出物を含む課題、授業への取り組み状況等を適切に活用して総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>言葉の習得において最も大切なのは、アウトプットです。音と文字の関係を押さえながら、「書くこと」によって学習内容を強化していきます。授業では「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を統合しながら行います。授業中はしっかりと声に出して発音してください。様々なコミュニケーション活動や音読練習に積極的に参加しましょう。また、ペアやグループによる学び合いを大切にしましょう。積極的に挙手をして発表し、授業で学んだことはファイルノートにしっかりとメモを取り、理解に努めましょう。家庭では、①音読復習②ファイルノートの見直し③ワークで書く練習④テスト直し⑤単語を書く練習などの復習を行いましょ。そして、次の授業の予習①単語調べ②本文を書く練習してくるようにならな。毎日続けることが大切です。ALTの先生の授業 (英語C) もあります。間違いを恐れず、学んだ英語をどんどん使ってください。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容			時数	
前期	4	Hi, English! Unit 0 小学校のふり回り Unit 1 中学校生活の始まり	• あいさつ、教室で使う英語、身のまわりのもの • 辞書の使い方 • I am / I like / Are you?	Let's Start! Word Library Lesson 1	• be動詞の文(文の形)	18
	5	《 第1回考査 》				
		Unit 2 ALTのクック先生 Unit 3 部活動	• This(That) is~. • He (She) is~. • When~? / Where~?	Lesson 2 My Classmates Lesson 3 Welcome to Class Yumi!	• He(She)is~. / What is~? / 形容詞、Who is~? A or B • 一般動詞の文 否定文・疑問文・ What do you~? 代名詞 • 単数と複数 複数形	17 17
	6	《 第2回考査 》				
		Unit 4 ニュージーランドの中学校生活	• What time~?、What+名詞~? • Be.../Come.../Don't	Lesson 4 My Friend Maria	• 一般動詞の文(3単現) 否定文・疑問文・疑問詞 Where ~? / When~?	17
	7	《 サマーチャレンジ 前半 》 [夏季休業中] 《 サマーチャレンジ 後半 》				
	8	Unit 5 夏祭りの思い出 Stage Activity 1	• 前置詞/like~ing/ be good at~ing • つながりのある文章を書く	Lesson 5 At the Sports Store	• 所有代名詞 疑問詞 How+形容詞~? Whose~? / How many~? / Who~? / Which~? Whatを用いた疑問文	17
	9	Unit 6 兄の卓也の紹介スピーチ	• 三人称単数現在形 • 紹介スピーチ			
	10	Unit 7 日本に暮らす外国人アーティスト	• 一般動詞の疑問文 • him / her Which~? / Whose~?	Lesson 6 At the Italian Restaurant	• 命令文 • canを用いた文・否定文・疑問文	17
	後期	11	《 第3回考査 》			
		Unit 8 サプライズ誕生日パーティー Unit 9 国際支援、水問題 Stage Activity 2	• 現在進行形 • 感嘆文 How~! / What~! • 不定詞 • look + 形容詞	Lesson 7 We're Playing Tennis Now. Lesson 8 At South Elementary School	• 現在進行形 • 否定文・疑問文 • 現在形と進行形 • 一般動詞の過去形 • 否定文・疑問文 • 不規則動詞	17 17
12		Let's Read 1 Let's climb Mt. Fuji	• 好きな有名人や尊敬する人について説明したり、たずねたりする • 図や表を読み取る			
1		《 第4回考査 》 [冬季休業中]				
2		Unit 10 クック先生のロンドン旅行 Unit 11 一年の思い出 Stage Activity 3	• 過去形 • 規則動詞、不規則動詞 • I was~/ Were you~ • There is~/ There are~ • 思い出に残った行事について発表する • 速読(物語)	Lesson 9 Tom Was Sick Yesterday. Lesson 10 Let's Cook a "Beef Bowl."	• be動詞の過去形 • 過去進行形 • 特別用法のit • be going to • 助動詞 • How...? / Why...?	17 17
3		Let's Read 2 City Lights				
		《 学年末考査 》				
		補充学習				5
		《 スプリングチャレンジ 》				
			総時間数			176

第1学年 道徳年間指導計画

学校の教育目標	科学的思考力と創造力を身に付け、21世紀の社会を各分野で主体的に担っていくことができる生徒の育成 幅広い知識と国際的な感覚を身に付け、国際社会で活躍できる知的バランスのとれた生徒の育成 豊かな人間性を持ち、自分を律し他を尊重しながら個性を伸長する意欲ある生徒の育成	教科書 検定教科書「自分を見つめる」
学年の重点項目	基本的な生活習慣の定着を図り、自分で考え判断し、その行動に責任をもつ。	

月	主題名	内容項目	資料名	ねらい
4	オリエンテーション	-	オリエンテーション	一人ひとりが自分の考え方を伸び伸びと表現し、周りの人がそれを受け止め考えられる力を培う。
	自立心、自律性	A-(1)	この人生の主人公	「この人生の主人公」の詩から自分の人生を主体的に生きることについて考えることを通して、自立心や自律性の大切さに気づき、自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする道徳的実践意欲を培う。
	目標を設定し実践しよう	A-(4)	目標は小刻みに	小さな目標を設定し、それらを達成していくことで完走することができた「私」の心の動きについて考えることを通して、目標の達成が希望や勇気を生み出すことに気づき、目標に向かって困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする道徳的実践意欲を培う。
5	節度を守る	A-(2)	釣りざおの思い出	釣り夢中なあまり門限を越えてしまい、釣りざおを折ってしまった「私」の心の動きについて考えることを通して、節度を守り節制し、安全で調のある生活をしようとする道徳的実践意欲を培う。
	温かい思いやり	B-(6)	地下鉄で	筆者が感じた少女たちの仲あふれる様子について考えることを通して、節度を守り、優しさに気づき、思いやりの心や温かい人間関係を築く道徳的実践意欲を培う。
	異性についての理解	B-(8)	アイツ	真一と夏樹が仲違いしてから仲直りするまでの心の動きを共感的に理解し、これからの二人のよりよい関係について考えることを通して、異性間においても互いに相手を理解し、よさを認め合うことの大切さに気づき、心から信頼し合える人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	感動、畏敬の念	D-(21)	ガジュマルの木	道徳を教えるガジュマルの木の命を受けたコウエイの心を共感的に理解することを通して、美しいものや気取ったものに感動する心、人間力を越えたものに対する畏敬の念をもつ道徳的実践意欲を培う。
6	法やきまりの意義	C-(10)	人に迷惑をかけなければいいの	自転車の事故を扱った「僕」の考えの弱さについて考えることを通して、法やきまりが自分の生活や権利を守るために必要であることを気づき、法やきまりを厳格に守り、規律ある社会の実現に努める道徳的実践意欲を高める。
	人間としての誇りある生き方	D-(22)	よみがえった良心	すべてを捨てていくことになってもアガサを助けることを選んだジミーの思いについて考えることを通して、人間には気高く生きようとする心があることを理解し、人間としての誇りある生き方を見出そうとする道徳的実践意欲を培う。
	寛容の心	B-(9)	言葉の向こうに	自分のコミュニケーションの在り方を振り返る加藤子の気付いたことについて考えることを通して、人それぞれにいろいろなもの見方・考え方があることを理解し、寛容の心をもって他者と接していく道徳的実践意欲を高める。
	命あるものをいとおしむ	D-(19)	曙号の死	朝日見舞は曙号を愛し、船の沈没を悲しむ「僕」の心の動きについて考えることを通して、生命の尊厳を理解し、命あるものをいとおしむ、かけがえのない生命を尊重する道徳的実践意欲を培う。
7	家族の深い愛	C-(14)	美しい母の顔	嫌っていた母のやけどの跡ができた理由を知って、涙を流す「私」の心情を共感的に理解することを通して、深い愛情をもって育ててくれた家族に感謝し、敬愛の念をもつ道徳的実践意欲を培う。
	自然愛護に努める	D-(20)	あのハチドリのように	破壊された自然を目にして立ち尽くすマウイさんの心情と決意について考えることを通して、自然愛護を大切にすることの意義を理解し、進んで自然愛護に努める道徳的実践意欲を培う。
	思いやり、感謝	B-(6)	読み物資料 帰郷	多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに気づき、それらに感謝し、応えようとする態度を育てる。
9	公平であること	C-(11)	ある日のバッターボックス	生き生きとソフトボールをする〇さんと子供たちの姿に触れた筆者の心情について考えることを通して、誰に対しても公平であることのよさや大切さに気づき、差別や偏見をなくし、誰もが生き生きとできる社会の実現に努める道徳的実践意欲を培う。
	思いやりと感謝	B-(6)	旗	バッターのクラス旗を掲げた少女の姿と「僕」の思いを共感的に理解することを通して、思いやりの心をもって人と接し、絆を深めていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	公德心	C-(10)	島耕作 ある朝の出来事	朝の満員電車で起きた出来事について、様々な登場人物の視点から考えることを通して、公共の場において互いに配慮し合い、尊重し合うことの大切さに気づき、社会生活の中で守るべき公德を重んじ、住みよい社会をつくっていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	新しいものを生み出す	A-(5)	ミスター・ヌードル ― 安藤百福 ―	誰もが考えもしなかったアイデアを生み出し、それを創り上げた安藤百福さんの生き方について考えることを通して、想像力を働かせ、好奇心・探究心をもって探究することの大切さに気づき、真理を探究して新しいものを生み出そうとする道徳的実践意欲を培う。
10	自己を向上させる努力	A-(3)	木箱の中の鉛筆たち	落ち込んでいた筆箱が、父の愛と兄弟の励ましで木箱から脱出したことについて考えることを通して、自己の向上を図り、個性を伸ばして成長しようとする道徳的実践意欲を培う。
	支え合い、励まし合う友情	B-(8)	吾一と京造	戦前までたてわけていた京都の茶屋で暮らす吾一の義理について考えることを通して、互いを支え合い、励まし合う友情の大切さに気づき、心から信頼できる友関係を築こうとする道徳的実践意欲を培う。
	生命の神秘と尊敬	D-(19)	あなたはここから生まれてきた	出産における人体の仕組みを知り、遺伝・環境・性格などの多様な観点から生命の神秘について考えることを通して、畏敬の念をもって、かけがえのない生命を尊重する道徳的実践意欲を培う。
	誠実に責任をもつこと	A-(1)	ネット将棋	敏和、男子、智子の話を聞いて、「僕」が気付いたことについて考えることを通して、誠実に自己の責任を受け止めることの大切さに気づき、自律の精神を重んじ、誠実に実行してその結果に責任をもつ道徳的実践意欲を高める。
11	礼儀の意義	B-(7)	半分おとな半分こども	「僕」が「おとな」の人について考えることを通して、心と形が一体となった礼儀の意義に気づき、時と場に応じて適切な言動をしようとする道徳的実践意欲を培う。
	いじめを許さない	C-(11)	ヨシト	同調圧力を乗り越えて、ヨシトへのいじめを毅然と立ち向かうとするアツシの思いについて考えることを通して、正義と公正を重んじ、いじめのない社会の実現に努める道徳的実践意欲を培う。
	心のあたたかさ	B-(6)	夜のくだもの屋	くだもの屋のあかりに込められたおじさん、おばさんの善意を知った少女の心情を共感的に理解することを通して、思いやり、助け合う心のよさに気づき、思いやりと感謝の念をもって他者と接し、人間愛の精神を深めていく道徳的実践意欲を培う。
	郷土の発展に努める	C-(16)	アップルロード作戦	多くの困難に立ち向かいながらりんご並木をつくり、受け継いでいく飯田東中学校の生徒たちの思いについて考えることを通して、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員として進んで郷土の発展に努める道徳的実践意欲を培う。
12	弱さの克服	D-(22)	いつわりのバイオリン	ロビからの手紙に涙をこぼすアツシの心情について考えることを通して、誰もが持っている人間らしいよさを認め、弱さに負けず自分らしい生き方を見出そうとする道徳的実践意欲を培う。
	伝統文化の継承と発展	C-(17)	音を宿す	どなたでも大鼓の形が変わっても、変わるものがないものがあることに気付いた三浦彌一さんの大鼓作りについて考えることを通して、優れた伝統と文化を育んできた先人たちの努力と精神に気づき、我が国の伝統と文化を尊重し、継承、発展させていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	かけがえのない命	D-(19)	読み物資料 キミはあちゃんの椿	生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を惜一杯生きようとする態度を育てる。
1	支え合う家族	C-(14)	ふたりの子供たちへ	「僕」が「ふたりの子供たち」の手紙に込めた思いについて考えることを通して、家族が互いに愛情をもって支え合うことの大切さに気づき、家族への敬愛を深め、家庭の一員として充実した家庭生活を築こうとする道徳的実践意欲を培う。
	良心の声	D-(22)	銀色のシャープペンシル	本当のことを言い出すことができず葛藤する「僕」の心の動きについて考えることを通して、自己の弱さや罪と向き合い、それらに打ち勝つ良心の声を自覚して、よりよく生きる喜びを見出そうとする道徳的実践意欲を培う。
	勤労の尊さや意義	C-(13)	午前一時四十分	家族に止められても無理難題を続ける母の働く理由について考えることを通して、勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通して生きがいのある人生を実現しようとする道徳的実践意欲を培う。
2	自律的な行動と責任	A-(1)	裏庭でのできごと	困難を乗り越えて真実を告白することを決断した雄への決意の理解を通して、自律的な行動と責任の大切さに気づき、自律的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつ道徳的実践意欲を高める。
	よりよい学校生活	C-(16)	二枚の写真	筆箱の蓋に貼られた同級生たちの思いについて考えることを通して、人々の心が一体となった学校生活のよさに気づき、学校一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい学校生活をしようとする道徳的実践意欲を培う。
	かけがえのない生命	D-(19)	語りかける目	母の遺言を「僕」に入れ、語りかける少女の目に宿る思いについて考えることを通して、限りある生命のかけがえのなさを理解し、自らの生命を尊重しようとする道徳的実践意欲を培う。
3	社会参画と社会連帯	C-(12)	加山さんの願い	雨の中で傘を持たずまっすぐ歩ける加山さんが気付いたことについて考えることを通して、互いに助け合い、励まし合う社会連帯の大切さに気づき、社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める道徳的実践意欲を培う。
	希望と勇気をもって生きる	A-(4)	終わりになき挑戦 ― 成田真由美 ―	大きな困難を乗り越えて挑戦を続けようとする成田真由美さんの強い意志について考えることを通して、希望と勇気をもって生きることの大切さに気づき、より高い目標に向かって、困難や失敗を乗り越え、着実にやり遂げようとする道徳的実践意欲を培う。
	国際理解、国際貢献	C-(18)	国際協力ってどういうこと？	2つの作文のエピソードに対する自己の判断や理由について考えることを通して、国際的視野に立って他国を理解することの大切さに気づき、日本人としての自覚をもって国際理解、国際貢献に努める道徳的実践意欲を培う。
			1年間のふり返り	

教科名	年間授業時数	学年
サイエンス	39	1
授業形態	指導者名	
一斉授業・分割授業（1学級を2講座）	松末昌樹	奥野晃司 武下晃慎 木挽屋菜摘

目 標	<p>科学が社会生活において果たしている役割に目を向け、実験・観察・数学的活動を通じて、科学的に調べる能力と態度を育てる。さらに、一人一人が自分の考えについて他者と討論することによって、探求すること、説明をすること、根拠付けをすることなど問題の解決や探求活動に必要なスキルを身に付け、学んだ知識と組み合わせて問題解決的な学習を取り入れることにより、科学的思考力や創造力を養う。</p>
学習のねらい	<p>①英語によるサイエンスピック授業を通して知的好奇心を高める。 ②博物館連携授業を展開し、サイエンスインタープリターとしてのプレゼンテーション実習を行う。 ③論理的思考力を構成する様々な推論形式（ピアジェの形式的思考操作）を強化することによって、認知能力の促進・加速を図る。 ④グループやクラス全体の議論を通して十分な経験と反省をさせ、批判的思考、複眼的思考、分析的思考操作の方法を身に付ける。</p>
評価の観点	<p>①サイエンスプレゼンテーションに興味をもつ。 ②課題解決のために様々な解決方法を考えようとする態度が身についている。 ③課題を解決するために実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題解決に当たることができる。 ④形式的思考操作ができる。 ⑤他者の意見を論理的な思考によって判断し、その意見に対する自分の考えを持つことができる。 ⑥自分の意見を適切にまとめ、効果的な発表ができる。</p>
先生からアドバイス (授業の受け方、ノートの取り方など)	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し、自ら学び、自ら表現する力を身に付けましょう。 ・答えが一つには決まらない課題がたくさん出てきます。柔軟な発想で様々な可能性をしっかりと考えましょう。 ・友だちとの議論を通して、批判的、複眼的、分析的に考え、自分の意見と自己決定力をもつようにしましょう。 ・グローバルで学習している言語技術の手法をサイエンスでも利用して、意見が言えたり、文章が書けたりするようになりましょう。

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	・CASE (CognitiveAcceleration through Science Education) 【変わるものは何か】 (1)	3	・様々な例を通して、「変数」「値」「関係」という言葉と概念を理解する。
	5	【2つの変数】 (2)	3	・「入力変数」と「結果の変数」という言葉を使って2つの変数の間の関係が説明できるようにする。
	6	【どんな種類の関係か】 (3)	3	・「変数のコントロール」という操作ができるようにする。
	7	【「公正な」テスト】 (4)	3	・「思考練習」ができるようになることによって、実験の計画を立てる力を身に付ける。
	8 9	【転がるボール】 (5)	3	・集合の考え方を導入し、ものをだんだん小さなグループに分けることができるようになる
後期	10	【グループ分けをする】 (6)	3	・さらに、カテゴリー化することが何の役に立つのかを理解する。
	11	【さらにグループ分けをする】 (7)	2	・より複雑な分類ができるようにする。
	12	【歯車と比率】 (8)	2	・比例性の概念とそれに伴う縮尺と比率の概念を理解する。
	1	【反比例性】 つりあいを保つ (9)	2	・二つの変数の間に増減の逆関係があるものについて調査を行い、関係性を考える。
	2	【反比例性】 幹と枝 (10)	2	
	3	【反比例性】 つりあいを保つ (11)	2	・おもりの重さと支点からの距離を調べ、反比例性を導入する。
		【反比例性】 電流、長さ、厚さ (12)	2	・電流と抵抗の間の反比例性を調べ、反比例の概念を確立する
		【蓋然性】 豆のサンプリング (13・14)	1	・母集団を代表するような標本集団に必要な標本数を調べ、標本抽出の初歩的な概念を持つ。
		【組み合わせ】 選択肢 (15)	2	・すべての場合の数を上げを行う。
		【変数】 相互作用 (16)	3	・酵母菌、鉄さびについての実験を通して、二つの「入力変数」が合わさって「結果の変数」が大きくなるような現象について考える。
	課題研究発表会に参加する	1		
	総時間数	39		